

# 平成20年産 秋大豆栽培改善技術

発行 ごとう農協

<p>1. 団地化と大豆+麦体系で生産性を高めよう！</p> <p>2. ブロックローテーションにより連作障害や排水対策を行い収量・品質を向上させよう！</p>	<p><b>栽培の重点</b></p>	<p>1. 排水をよくし、地下水位は40cm以下にする。</p> <p>2. 土づくり（有機物、苦土石灰の施用）を徹底して行う。</p> <p>3. 適期播種と栽培密度を適正にする。</p> <p>4. 初期雑草の効果的防除をはかる。</p> <p>5. 紫斑病、カメムシ、ハスモンヨトウ等、予察による適期防除に努める。</p> <p>6. 適期収穫、乾燥調製を適正に行う。</p>
--	---------------------	---

## 病害虫防除基準・主な管理作業

月	6		7		8		9		10		11																														
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中																												
生育相	発芽期		茎葉生育期		開花着莢期		子実肥大期				成熟期																														
主な管理作業	圃場の選定、耕起整地、土壌改良材施用		播種期、播種適期、基肥施肥		第一回培土、第一回防除		第二回防除、乾燥防止		第三回防除、過湿防止		乾燥防止、刈取り、脱粒、乾燥、選粒・調製																														
管理作業の内容	早目に耕起する。土づくり資材を入れ連作はさける。		除草剤の散布、播種量10a当り4~6kg、砕土を十分にす。		過乾燥の場合は灌水をする。		圃場排水をよくする。		過乾燥の場合は灌水をする。		莢雑物・屑粒を除く。乾燥水分14%以下に調整する。土壌、石が混入しな変化した頃、葉が褐変し、莢が褐変する。																														
病害虫名	紫斑病、ハト対策		コガネムシ類幼虫		ハスモンヨトウ		カメムシ類、ハスモンヨトウ		アオクサカメムシ、ホリヘリカメムシ		シロイチモジマダラメイガの幼虫																														
農薬名	対しゅう菌粉剤、キヒゲンを10kgに希釈して使用		ダイアジン粒剤50g散布		ロムダン粉剤DL4kg		エルサン粉剤DL4kg		トレボン粉剤DL4kg		ミツモンキンウワバ、イテモンジカメムシ																														
栽培上の留意点	圃場条件の整備																																								
	<p>1. できるだけ集団化し、湿害防止をはかる。</p> <p>2. 弾丸暗渠や圃場周囲の溝上げを実施し、乾田化に努める。</p> <p>3. 土づくりに努め、地力を高めよう。</p>																																								
	<p>10a当り</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">一般地区</th> <th colspan="2">新規圃場整備地区</th> </tr> <tr> <td>堆肥 1,000kg</td> <td>堆肥 2,000kg</td> <td>苦土石灰 200kg</td> <td>ようりん 40kg</td> </tr> <tr> <td>又は緑肥(れんげ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰 100kg</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>												一般地区		新規圃場整備地区		堆肥 1,000kg	堆肥 2,000kg	苦土石灰 200kg	ようりん 40kg	又は緑肥(れんげ)				苦土石灰 100kg																
	一般地区		新規圃場整備地区																																						
	堆肥 1,000kg	堆肥 2,000kg	苦土石灰 200kg	ようりん 40kg																																					
又は緑肥(れんげ)																																									
苦土石灰 100kg																																									
<p>播種時期と栽植密度</p> <table border="1"> <tr> <th>播種時期</th> <th>畦幅</th> <th>株間</th> <th>播種粒数</th> <th>m当本数</th> <th>10a当播種量</th> </tr> <tr> <td>6/10~24</td> <td>75cm</td> <td>42cm</td> <td>1~2粒</td> <td>4.3本</td> <td>1.4kg</td> </tr> <tr> <td>6/25~7/10</td> <td>75</td> <td>21</td> <td>2</td> <td>11.4</td> <td>3.6</td> </tr> <tr> <td>7/10以降</td> <td>75</td> <td>15</td> <td>2</td> <td>18.0</td> <td>5.0</td> </tr> </table> <p>【注】1) 播種が遅れた場合は播種量を多くする。 2) 土壌はできるだけ小さくする。 3) 水田はできるだけ高畦栽培とし、排水を良くする。</p>												播種時期	畦幅	株間	播種粒数	m当本数	10a当播種量	6/10~24	75cm	42cm	1~2粒	4.3本	1.4kg	6/25~7/10	75	21	2	11.4	3.6	7/10以降	75	15	2	18.0	5.0						
播種時期	畦幅	株間	播種粒数	m当本数	10a当播種量																																				
6/10~24	75cm	42cm	1~2粒	4.3本	1.4kg																																				
6/25~7/10	75	21	2	11.4	3.6																																				
7/10以降	75	15	2	18.0	5.0																																				
<p>除草剤使用基準</p> <table border="1"> <tr> <th>除草剤名</th> <th>10a当散布量</th> <th>散布時期</th> </tr> <tr> <td>トワ/ナイ粒剤5</td> <td>4~6kg</td> <td>播種直後</td> </tr> <tr> <td>又はトワ/ナイ乳剤</td> <td>200~300ml (100%)</td> <td>播種直後</td> </tr> </table>												除草剤名	10a当散布量	散布時期	トワ/ナイ粒剤5	4~6kg	播種直後	又はトワ/ナイ乳剤	200~300ml (100%)	播種直後																					
除草剤名	10a当散布量	散布時期																																							
トワ/ナイ粒剤5	4~6kg	播種直後																																							
又はトワ/ナイ乳剤	200~300ml (100%)	播種直後																																							
<p>培土・時期</p> <p>1. 生育初期に培土をしないと不定根が発生し増収となる。又、倒伏を軽減する。</p> <p>2. 第1回培土は本葉1枚頃、子葉がかくれる程行う。</p> <p>3. 第2回培土は本葉3枚頃、初生葉がかくれる程行う。</p>																																									
<p>収穫・調製</p> <p>1. 刈取時期は完全落葉後3~4日放置し、莢をゆすると粒が莢内で音がするようにになったら、できるだけ早く、日中を避けて朝夕に刈り取る。</p> <p>2. 刈取後の水分が高い場合は、3~4日地干しを行い、穀粒水分15~16%程度で脱粒する。</p> <p>3. 出荷水分は14%以下に十分乾燥させる。</p> <p>4. 乾燥後は、莢雑物を取り除き、大・中・小粒に選別する。</p>																																									
<p>施肥基準 (10a当り)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">基肥</th> <th rowspan="2">追肥</th> <th colspan="3">成分量</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P</th> <th>K</th> </tr> <tr> <td>BB特裁大豆用</td> <td>40</td> <td></td> <td>2.4</td> <td>4.0</td> <td>4.0</td> </tr> </table>												肥料名	基肥	追肥	成分量			N	P	K	BB特裁大豆用	40		2.4	4.0	4.0															
肥料名	基肥	追肥	成分量																																						
			N	P	K																																				
BB特裁大豆用	40		2.4	4.0	4.0																																				
<p>播種時期</p> <table border="1"> <tr> <td>播種適期</td> <td>6月25日~7月10日</td> </tr> </table>												播種適期	6月25日~7月10日																												
播種適期	6月25日~7月10日																																								
<p>特性表</p> <table border="1"> <tr> <th>播種適期</th> <th>早晩の別</th> <th>開花期</th> <th>成熟期</th> <th>莖長</th> <th>花色</th> <th>品質</th> </tr> <tr> <td>フクユタカ</td> <td>中</td> <td>8/22</td> <td>11/7</td> <td>52cm</td> <td>紫</td> <td>上の中</td> </tr> </table>												播種適期	早晩の別	開花期	成熟期	莖長	花色	品質	フクユタカ	中	8/22	11/7	52cm	紫	上の中																
播種適期	早晩の別	開花期	成熟期	莖長	花色	品質																																			
フクユタカ	中	8/22	11/7	52cm	紫	上の中																																			
<p>農薬使用基準</p> <table border="1"> <tr> <th>農薬名</th> <th>収穫前使用期間</th> <th>総使用回数</th> <th>農薬名</th> <th>収穫前使用期間</th> <th>総使用回数</th> </tr> <tr> <td>キヒゲン</td> <td>播種前</td> <td>1</td> <td>エルサン粉剤DL</td> <td>14</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>ダイアジン粒剤5</td> <td>30</td> <td>5</td> <td>ラビーフロアブル</td> <td>14</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>ロムダン粉剤DL</td> <td>14</td> <td>3</td> <td>トレボン粉剤DL</td> <td>14</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>トレボン乳剤</td> <td>14</td> <td>2</td> </tr> </table>												農薬名	収穫前使用期間	総使用回数	農薬名	収穫前使用期間	総使用回数	キヒゲン	播種前	1	エルサン粉剤DL	14	2	ダイアジン粒剤5	30	5	ラビーフロアブル	14	2	ロムダン粉剤DL	14	3	トレボン粉剤DL	14	2				トレボン乳剤	14	2
農薬名	収穫前使用期間	総使用回数	農薬名	収穫前使用期間	総使用回数																																				
キヒゲン	播種前	1	エルサン粉剤DL	14	2																																				
ダイアジン粒剤5	30	5	ラビーフロアブル	14	2																																				
ロムダン粉剤DL	14	3	トレボン粉剤DL	14	2																																				
			トレボン乳剤	14	2																																				
<p>補植・間引き</p> <p>1. 欠株が多い場合は直ちに追播か補植する。補植は本葉の展開しない前までが活着はよい。</p> <p>2. 間引きは繁茂徒長防止のため、本葉は1~2枚頃までに1株当り2本立にする。</p>																																									

※農薬散布時には他の農作物にかからないように十分に注意しましょう

※農薬使用時には必ずラベルを確認しましょう

産地づくり交付金技術加算の交付を受けるには、6技術を確認できる作業日誌及び領収書・伝票と機械作業の写像が必要です。